

天地

ネットワークテーブル 528号

天地シニアネットワーク 2022. 2. 15

TENTĪ TODAY			1
会員の広場			2
外国語	中国人から見た日本人の言語表現心理 (31) 急ぐ心理の言語表現	兪 彭 年	2
旅行	2年ぶりに「そうだ京都に行こう」を 実行 (5) 上賀茂神社を訪れる (その2)	池端千一郎	5
歴史	国立慕情 (11) 一橋・籠城事件とその後 (3)	津田 孚人	7
事務局			11

TENTĪ TODAY

小学校時代の担任の先生(男性)が、1月の末に急死された。享年95歳。当メルマガの標題にある「天地の文字(天の中の大が太になっている)」は、先生の筆によるものです。昭和22年に第一師範(現・東京学芸大学)を卒業して武蔵野第四小学校に奉職され、即担任として、4年から6年まで受持ちとして指導を受けた。卒業後も、学生時代、社会人時代と先生出席のクラス会がつづき、コロナ前の約15年間は、年に3-4回集まって、一緒にカラオケを楽しんだ。のど自慢に推薦したいほど上手でした。若いころはヘビースモーカーでしたが、薬は飲まず、病院へは行かずでも、人一倍健康に気を使っていました。100歳までは大丈夫とっていましたので残念です。

葬儀は、2月10日、11日と府中の斎場であり、告別式に行きました。聞くところでは、当日運動も兼ねて少し遠めのスーパーまで、手押し車を使って買い物に行き、たくさん買って帰宅、トイレを使って出たところで倒れたようで、夕方、息女が寄って、見つけたとのことでした。警察の監察医が称賛するほど、肉体の健康状態は良く、火葬場でみたお骨も、真っ白で輝いているように見えました。近所に住み、時々寄って注意していましたが、とご息女は語っていましたが・・・。

高齢者が一人でも二人でも生活するのが難しくなってきました。国の介護システムがあるようですが、どの程度頼りにできるかわかりません。先ず自力ですが、思いがけない状況変化で、一気に不安になることも予想されます。とりあえずは、高齢者同士の情報交換、相互扶助が必要と思われれます。お互いに身近のところにいたいもので

す。最近は、「思いついたら直ぐメールか電話」戦法にしています。

日本の社会には、高齢者を優先、守るという美德がありました。最近、高齢者は、見放されているように感じています。高齢者は、批判精神が旺盛ですから、保守派の政治家は選挙の票として期待できないので、関心が薄れるのではないのでしょうか…。そうはいつても、目先に囚われ、口先だけで責任を取らない政治家、官僚は困ります。権威のあるべき国の統計を改ざんしても問題なしとする風潮など、容認不能です。“己を正す”精神を、日本社会全体で取り戻したいものです。

会 員 の 広 場

中国人から見た日本人の言語表現心理(31)

愈彭年(84歳)

急ぐ心理の言語表現

どの国にも気の長い人と気の短い人がいる。しかし、相対的だが、日本人は気が短いとよく言われる。待つことができず、すぐにいらいらするからだ。日本語に「桜前線」という言葉がある。天気図の前線にたとえて、日本国内の南から咲き始める桜の開花日が同じ地点を結んだ線の意味だが、中国語にはこのような語彙はない。春になると、桜前線もテレビや新聞のニュースとなり、どこどこで桜が開花したとか、どこどこはいつ開花するとか、開花が例年より何日早かったとか、何日遅くなるとかが報道される。日本人の桜開花情報についての急ぐ心理が見事に表される。

日本語には急ぐ心理を表した言葉が豊富だ。「待ちきれない」「待ちきれず」「待ち倦む」「待ち兼ねる」「痺れを切らす」「待ち望む」「待ち焦がれる」「待ち侘びる」「心待ちにする」「待ち遠しい」「待ちに待った」「今か今かと」「今や遅し」などは異なったニュアンスで急ぐ心理を表している。これらの単語を中国語にぴたりと訳すのは大変難しい。

倉石武四郎氏と折敷瀬興氏と編纂による『岩波日中辞典』には、「待ち倦む」「待ち兼ねる」「待ち焦がれる」「待ち遠しい」「待ちに待った」「心待ち」などの項目は載せてあるが、ただ例文とその訳文が付いていて、訳語は付いていない。ぴたりとする訳語がないからであり、例文とその訳文で理解するしかないことを示している。「待ち望む」の項目には「**盼望**」という訳語が付いている。

「お待ちどうさま」はよく耳にするあいさつの言葉だ。飲食店に入って、何かを注文して待っていると、ウエイトレスが注文した品を持ってきて、お客に「お待ちどおさまでした」と言う。この言葉によって待ち遠しいと思って待っていた相手に待たせたことをわびる気持が表される。この「お待ちどおさまでした」を中国語に訳すと、普通は「让您久等了」となるしかし、この「让您久等了」は中国人には耳慣れない。というのは、中国の飲食店では絶対と聞いていいほどこのような言葉を耳にしないからだ。「让您久等了」などとウエイトレスは言わないし、客もそのようなあいさつを期待しないからだ。だから、「お待まちどおさまでした」を「让您久等了」と訳してもしっくりしない。

これは中国人には日本のような急ぐ心理が働かないからだ。急ぐ心理がないのに「お待ちどおさまでした」などと言われると何のことだか分からなくなる。したがって「お待ちどおさま」は日本人の急ぐ気持ちを表現したあいさつ言葉と言えよう。

このほかに、「お待たせしました」というあいさつ言葉がある。何かを待っていた人に対して、待たせたことに軽いお詫びの気持ちが込められている。ざっくりばらんであれば、「お待たせ」となり、例えば何かを渡すときに、「はいお待たせ」と言う。相手の急ぐ心理を気遣う気持ちから生まれた言葉であり、やはり相手との和を保つための心理が根幹になっている。

「とりあえず」の使い方に「右にとりあえず御礼まで」という手紙文の最後によく使われる言葉がある。これは相手が何かをしてくれたので急いで先にお礼をしなければならぬいきもちを表す言葉で急ぐ心理が十分出ている。しかし、これを中国語に訳すと、普通は「特此表示谢忱」となって「とりあえず」の意味が訳されておらず、「急ぐ」のニュアンスが表現されていない。ここでは「とりあえず」がうまく訳せないからだ。「特此」は「特にここにて」という意味であり、中国の手紙文のしきたりによって使われるだけだ。

これと似た「右とりあえず御返事まで」もよく見かける言葉だが中国語の訳は「特此简复」となる。これから分かるように、中国の手紙文にはふつう「とりあえず」という意味の言葉は使われず、これはそのような「急ぐ」心理がない

からだ。言語表現心理の違いということになる。中国人にはこの「右とりあえず御礼まで」「右とりあえず御返事まで」の急ぐ心理が不思議に思われるのではないか。なぜそんなに急ぐのか、そんなに急ぐ必要があるのかと考えるに違いはない。ことを論理的に考えるのが中国人であり、論理的に考えればそんなに急ぐ必要が感じられなくなる。ことを情意的に扱うのが日本人であり、相手との和を保つためにいち早く反応する必要がおのずと生じる。

「早速」は「あることに応じて時間をおかずに、すぐ」という意味だが、「早速手配いたします」「早速お送りいたします」「早速調べまして御返事差し上げます」のように相手の欲することに使うと、相手の急ぐ心理を配慮した丁寧な表現に聞こえる。

森田良行氏の『基礎日本語』では「本来‘さっそく’は‘本人にとって行いたい、できることなら実現したいという行為があり、その実現が可能な状況になったので直ちに実行に移す’という発想である」と指摘されている。したがって「早速」を相手の欲することに使われると、話者はそれを進んで直ちに実現に移し、そしてその実現が可能であるということを相手に伝え、相手の急ぐ心理を配慮するニュアンスが含まれている。相手には自己の意を汲んでくれた表現として頼もしく聞こえる。「早速の御返事ありがとうございました」「早速のご手配にお礼申し上げます」「早速のご送付、感謝いたします」などは、自分の急ぐ心理に配慮してくれた相手に対する情感がこもっている。

「早速」には以上のような微妙なニュアンスがあるが、中国語に訳すとなると、なかなか難しい。「即刻」「及时」「马上」「就」などによく訳されるが、どう訳すかは決まっておらず、文脈によって訳が工夫される。「すぐに」「直ちに」などは短時間で変化する様子を表し、中国人には理解しやすいが、「早速」とよく混同してしまう。

.....
本章主な参考図書

- 日本語の生理と心理(金田一 春彦 著 至文堂 1962年発行)
- 日本人の表現心理(芳賀 綏 著 中央公論社 1979年発行)
- 日本語の発想 (森田 良行 著 冬樹社 1981年発行)
- 日本語の論理 (外山 滋比古 著 中央公論社 1973年発行)
- 日本人らしさの構造(芳賀 綏 著 大修館書店 2004年発行)
- 基礎日本語 1(森田 良行 著 角川書店 1977年発行)
- 基礎日本語 2(森田 良行 著 角川書店 1980年発行)
- 日本文法辞典(江湖山 恒明 松村 明 編 明治書院 1962年発行)

2年ぶりに『そうだ京都に行こう』を修行—その5— 池端千一郎 (74歳)

京都の上賀茂神社を訪れる(その2)

上賀茂神社の境内を緩やかに蛇行しながら流れる櫓の小川は、敷地のほぼ南端で神社の境内を出て、神社の南側を東西に走る上賀茂本通りをくぐり抜け、その先で通りに沿った幅4m程の水路に入り明神川と名前を代えて東の方向へと流れて行く。この明神川沿いには、上賀茂神社で働く神主などの屋敷群がまとまって立地している。神社に代々仕えてきた世襲制の家柄のことを社家と言うが、社家の屋敷町を「社家町」と言う。京都ではこの上賀茂神社の南東側に数百年前から社家町がある。

神社から流れ出る小川に沿って境内から神社前の上賀茂本通りに出て、通りの東方向に目を転じた僕は、眼前に広がる町景観に思わず「これはこれは、なんて魅力的な町並みなんだ！」とすっかり舞い上がってしまった。上賀茂神社の社家町は、古くは室町時代から神官の屋敷町としての歴史があり、江戸時代には社家屋敷が270軒以上もあったようだが、明治4年に神職の世襲制が廃止されると、その数は一気に激減し、現在は20軒ほどが残っている。

社家の屋敷は一戸が300~500坪はあろうかというゆったりとした敷地で、その周囲を土堀が囲み、前を流れる明神川には玄関先から小橋が架けられている。また屋敷は上賀茂神社の鳥居よりも高くならぬよう、平屋もしくは低めの2階建てに造られている。社家屋敷の中には、前を流れる明神川の水を屋敷内の庭園に取り入れた家が少なからずある。これは庭園の演出というより、むしろ神職という職業柄清らかな水で生活空間や心身を浄めたり、生活用水として使用するためであると言われる。しかも昔から、屋敷内に引かれた水のうち、お浄めなどに使われた水はそのまま明神川へと戻すが、生活用水として使われた水は戻さず、敷地内の専用井戸に流すことで明神川を汚さないようにしてきたというから、水に対する神社関係者の格別な意識には驚かされる。

上賀茂社家町の中でもひととき目を引く立派な門構えの屋敷は“すぐき漬物”の店「なり田」である。神社の直近に位置し、店としての創業は1804年の頃だという。この店は今も昔と変わらぬ正統な製法で京都名物となった“すぐき漬”を製造販売している。

濁りのない清らかな水が爽やかな音を立てて流れる明神川、そこに架かる屋敷毎の小橋、敷地周囲を囲む落ち着いた色調の土堀、土堀越しに見える屋敷の樹林など

がしっとりとした伝統的な和の町景観を造り出しており、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている。京都の見所は何もお寺や神社や庭園ばかりではない。時間があれば是非とも上賀茂明神川沿いの社家町を訪れてみることをお勧めしたい。

神社境内から出る直前の小川



明神川沿いの屋敷と玄関前の小橋



社家町前の明神川と土塀



社家町にある漬物屋「なり田」



国立慕情 (11)

津田 孚人 (84歳)

一橋・籠城事件、とその後 (3)

昭和6年、10月8日夕刻、相京委員長他学生代表4人と、教授側代表3人が、それぞれ田中文相に面会、「行政財政整理案から予科・専門部は除外する」という言を得たので統制委員会は、午後7時半から第11回学生大会を開催した。

広い会場のAホールに裸のローソクの薄明りの中で、2千の学生がぎっしりと座り込んだ。開会を宣言、相京光雄委員長は、先刻の文相との会見の顛末を報告、『本日、ここに即刻籠城を解きたい』との提案をした。満場には安堵の空気が流れ、会場は割れるような拍手と歓声で包まれた。

その時、突如「教員養成所はどうなるんだ」「見殺しにするのか」と悲痛の叫びがあがり、会場には一瞬、異様な空気が流れた。石井滋統制委員より、「その問題については、先ほど予科、養成所の代表者諸君と話し合っただけで了解された。統制部としては、養成所を含めた全体が解決するまでは、全員の退学届を預かり、あくまでも闘争を続ける覚悟である。籠城は解いても、戦いは止めるのではない。決して養成所を見殺しにするものではないと断言するから了解して欲しい」と説明があり、養成所の学生も一応了解した。

しかし、教員養成所の学生は、完全には納得せず、単独で籠城を続行することとした。統制部、交渉部と緊密な連絡をとりながら大蔵省・文部省の官僚と折衝した結果、「予科、専門部同様に、廃止の対象から除外することに決定した」との確認がとれたので、「籠城解散」の決議をし、深更に解散帰宅した。

行政財政整理案では、教員養成所について「実業補修費が削減」としていた。それでは自然消滅が決定的となるので、同様な立場の横浜高等工業学校教員養成所、農科大学教員養成所、名古屋高等工業学校教員養成所と連帯し、反対運動を進めていた。東京商科大学教員養成所存続の決定により反対運動は無くなった。

「籠城解散」決定のあと、撤収、解散はスムーズに行われ、各自の部屋の布団、その他を即片付け、クラス委員は、ローソクの灯りを頼りに借り上げた布団のチェックと積み上げを行った。その数は約2500枚、大変な作業だった。引き取りに来た布団屋が数軒、それぞれ違う布団を仕分けて引き渡すのは至難の技、激務で倒れ近くの病院に運ばれる委員もでた。籠城のため神田一橋旧校内で購入した、食器、バケツ、その他の日用品は、後日、一括して東京市に寄贈した。

10月9日、国立に集合、教員養成所につき田中文部大臣から「存続」の表明が

あったことを確認、10月14日午前10時に兼松講堂で解団式を行うことを決定した。

10月14日午前10時より、解団式挙行。相京光雄統制部委員長は、「全学2千の同士諸君の一致団結と、教授、先輩諸氏の絶大なる支援による勇往邁進の結果、遂にわれわれは予科・専門部廃止の暴案を撃破し、ここに60年の伝統を誇る自由と自治の我が一橋を死守することが出来た」

「よって、我々は予科、専門部廃止絶対反対のすべての運動を、本日をもって打ち切り、ここに解団式を行う」と宣言、直ちに、統制部に保管されていた血判状の退学届けが、委員長から各クラスの代表者に壇上で手渡された。

昭和6年10月16日、文部省は、東京商科大学予科・専門部の存続を正式に決定し、発表した。

なお、「東京商科大学の予科・専門部存続」と同時に「北海道大学の予科・専門部」も存続が決定した。当時、大学予科と専門部を併置していたのは両大学のみで、東京商科大学は予科と商学専門部、北海道大学は予科と土木専門部、水産専門部であった。（北海道大学では、教授会による反対運動はあったが、学生による反対運動は殆ど無かったようである。）

以上、平成3年10月7日に発行された「申酉籠城事件史」（著者：依光良馨、発行者：申酉籠城事件記念事業実行委員会）により、「一橋・籠城事件」を辿ってみた。しかし書中にはなお、重要で気にな局面があり、感想を交えながら追記しておきたい。

- ① 申酉事件（明治41年、42年）では、渋沢栄一男爵が表に出て最初から最後まで積極的に支援された。籠城事件（昭和6年）では、ご高齢のためもあって最初だけの登場だが、経緯は以下にあるように、そのご意見は、その後の反対運動の大きな精神的なバックボーンとなった。

事件当初の10月3日、如水会の藤村義苗理事長等は、滝野川の渋沢栄一子爵邸を訪ね、応援を求めた。

「これは教育の実情を知らぬ暴挙である。今、私は病気だから、自分自身で各方面に運動することが出来ないのので、自分の代理として中嶋久万吉男爵（明治30年高商卒）を立てて、政府当局その他の各要路に運動させる」との助言を受けた。渋沢栄一子爵は、この日から丁度40日後の11月11日、御年92歳で薨去された（92歳）。

- ② 10月5日、堤康次郎氏（箱根土地社長・後の西武グループの創設者）を会長とする国立町住民大会が国立駅前の国立クラブで開かれ「予科・専門部廃止は国立町の施設、経営などから見て死活問題であると受け止める。廃止案の撤回を希望する」旨の決議案を満場一致で可決、住民2千人の署名した決議文を代表者が持参し、大蔵・文部両当局に陳情することを決めた。

大正12年9月1日の関東大震災で、神田一ツ橋の校舎の殆どを焼失、残った教室は使用できず10月には仮校舎建設のために工兵隊によって爆破された。震災前の5月に運動場用地として石神井の土地を取得していたが、本格的なキャンパス用地とはならず、大学は郊外へと土地を探した。そして、大正14年9月、神田の土地3400坪と国立にある箱根土地の7万2千坪余の土地を等価交換する契約を結んだ。

箱根土地は、国立地区を「我が国最初のユニヴァシテイータウン」として、開発、住宅分譲をしていく計画で、大学移転は必要だった。国立駅・停車場設置の請願は、大正14年3月に出され、10月末に設置許可が下りているが、大学との契約にも停車場設置が条件として盛り込まれており、土地交換の契約は、9月に締結されていることを考えると、箱根土地がかなりの無理をしたことが分かる。資金も苦しく箱根土地にとっては、東京商科大学・予科・専門部の廃止は死活問題だった。仮に万一廃止となっていたら、国立町の開発計画は頓挫し、西武グループのその後の発展は無かったかもしれない。

- ③ 籠城事件のあった昭和6年から10年経過後、本格的な軍部ファシズムの跳梁跋扈時代が始まり、東京商科大学も翻弄され変貌した。

昭和16年2月11日の紀元節の式典終了後、兼松講堂で開催された一橋会総会において、「**社団法人一橋会解散**」が満場一致で可決された。

「一橋会」は、**明治22年4月19日**に「学友会」として発足、**大正15年2月13日**の総会で、「社団法人一橋会」に改組された。「一橋会」は、一切の学生組織を網羅的に掌握する全学的な自治組織で、その自治活動は、多くの人材をはぐくみ育て、辛酉事件、籠城事件を見事に乗り越えたという輝かしい軌跡を残していた。解散はあまりにもあっけなかった。更に「一橋会」は、「一橋報国隊」と改変させられ、大政翼賛会的な団体と化した。

昭和16年10月・臨戦態勢強化のため、本科・予科・専門部の修業年限が6カ月短期となり、12月の卒業生は直ちに徴兵検査を受け、国防要員として充当された（学徒出陣）。「一橋報国隊」は「国民勤労報国協力隊」となり、授業を放棄

して軍事工場の増産と農村食料増産のための勤労奉仕に動員された。

昭和17年、卒業は9月に繰り上げ。

(昭和18年10月、文科系学生への徴兵猶予が撤廃された(学徒出陣はじまる))

昭和19年2月予科校舎、3月専門部校舎が、それぞれ陸軍に貸与を命ぜられる。9月26日、商業を軽蔑する官僚と、軍部は、「商」の字を槍玉にあげ、「東京商科大学」の「商」を削除撤去し、校名を「東京産業大学」と変えた。そして12月、兼松講堂と本科校舎の一部を中島飛行機(株)に貸与させられ、大学は、空襲の標的になった。

昭和20年3月10日、図書館の貴重な文献を250箱に詰め、長野県伊那軍教育会図書館へ送った。(その夜、東京大空襲)

④ 一橋学園は、国家非常の時局下で、軍部・官僚・憲兵の暴圧にさらされ、手痛く踏みにじられた。苦難と苦渋の中にありながら、教授、学生、職員は物静かな抵抗に徹し、隠忍自重して東京商科大学の伝統たる「本科・予科・専門部及び商業教育養成所の三位一体」の学制の温存確保に心を砕いた。その結果、戦後は、昭和24年5月30日公布された「国立学校設置法」に基づき、同年6月1日から全国的にいつせいに実施された学制改革を機に、東京商科大学は商学部、経済学部、法律社会学部(昭和26年3月、法学部と、社会学部に分れた)の4学部を一括統合する社会科学の総合大学を一挙に建設することが出来た。

⑤ 新しい大学の名称は、全学生の投票によって「一橋大学」と決定された。

校名決定について、他に候補があったのではないかという気もする。籠城事件当時、神田の校舎は僅かで、ほとんど国立・石神井へ移転している。地元の動きも、籠城事件のときに国立町民大会で反対を決議、2千人の住民が署名したと、先に②で説明したが、籠城事件2日目の10月6日には、北多摩郡の25町・村長の代表者8人が、籠城現場に地元特産品の練馬大根の沢庵漬け数樽、芋、白米、味噌、醤油などをトラックで届け、激励している。

他方、神田一ツ橋でも、デモで、靖国神社からの帰りに、神保町交差点付近で警官隊と揉みあった時、集まった数千の群衆や付近の学校、商店、旅館の人たちが、乱暴な警官に「ヤメロ」と叫んでくれたり「学生さんガンバレ」と声援してくれたりした。また釈放された帰途、「コーヒー無料」「学生さんがんばれ」という札が商店街のあちこちに貼られていて、神田人たちの人情の厚さに救われた思いをした学生が大勢いる。

結局、籠城事件という学園史上最大の事件のあった「神田・一橋」の地名が、戦前、戦後の難局を乗り越えてきた学園の歴史の証として、投票する学生の心に繋がり、残り、その結果校名として残ったと推測するのであるが・・・・？。

事務局

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電話・FAX 03-3819-7651